

柏市

スポーツ振興計画



柏市教育委員会



はじめに

現代社会における私たちの暮らしは、モータリーゼーション社会や高度情報化社会の到来により便利なものになった一方で、精神的なストレスの増大や運動不足による生活習慣病の増加、対面でのコミュニケーション能力の低下から、心身の健康の保持増進あるいはコミュニティの形成が大きな課題となっています。また、価値観やライフスタイルの多様化が進み、暮らしにおけるゆとりや潤いといった心の豊かさを築こうとする意欲が高まっています。

こうした中で、スポーツは、人々の自発的な意志に基づいて体を動かすという人間の根源的な欲求を満たすとともに、爽快感、達成感など精神的な充足や楽しさ、喜びをもたらしてくれます。また、体力の向上や生活習慣病の予防など健康の保持増進に資するものであり、日々の生活に生きがいや潤いをもたらしてくれます。

本市は、利根川や手賀沼など豊かな自然に恵まれており、この自然と調和した“手賀沼エコマラソン”は全国的にも注目された大会になっています。また、柏レイソル、JOMOサンフラワーズなどプロ・実業団の強豪チームが本市を拠点に活躍しています。さらに、市内には、東京大学や千葉大学などの研究機関が集積しており、これらの大学と連携した科学的スポーツトレーニングが展開されるなど、他の地域には無い優位性があります。

本市では、スポーツの持つ多様な意義を踏まえ、恵まれたスポーツ環境を最大限に活かしながら、市民の誰もが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことのできる生涯スポーツ社会を実現するため、本市のスポーツ振興の考え方と今後の方向性を示す「柏市スポーツ振興計画」を策定いたしました。

今後は、この計画に基づき、学校やスポーツ団体、民間企業との協働をさらに進め、計画の基本理念である「**市民創スポーツ**～スポーツのある暮らし～」の実現に向けて、力を注いでまいりたいと考えています。

市民の皆さまには、スポーツを「する」のみならず「みる（観戦する）」、「支える（応援する、運営する、育てる）」など、多様なかかわりを通じて、健康で、明るく豊かなスポーツライフを送っていただきたいと思えます。

終わりに、本計画の策定にあたり、貴重な御意見をいただきました柏市スポーツ振興審議会の委員の皆様をはじめ、スポーツ団体の方々に対しまして、心より感謝申し上げます。

平成19年3月

教育長 矢上 直

目 次

はじめに

第1章 計画の概要 1

- 1 計画策定の趣旨 1
- 2 計画の位置づけ 1
- 3 計画の期間 1
- 4 本計画における「スポーツ」の定義 2

第2章 スポーツを取り巻く環境 3

- 1 社会情勢の変化とスポーツとの関係 3
- 2 柏市の地域特性 5

第3章 柏市のスポーツの現状と課題 7

- 1 「する」スポーツの現状と課題 8
- 2 「みる」スポーツの現状と課題 12
- 3 「ささえる」スポーツの現状と課題 13
- 4 スポーツ施設の現状と課題 14
- 5 スポーツに関する情報の現状と課題 15

第4章 計画の基本的な考え方 16

- 1 スポーツ振興の目的 17
- 2 計画の基本理念 18
- 3 計画の基本目標 18

第5章 施策体系 21

- 1 多様な参加ができる「する」スポーツの充実 24
- 2 魅力ある「みる」スポーツの充実 28
- 3 感動を分かち合う「ささえる」スポーツの充実 30
- 4 気軽に利用できる「場所」の充実 33
- 5 スポーツを楽しむきっかけとなる「情報」の充実 35

第6章 重点プロジェクト 37

- 1 学校体育施設活用プロジェクト 38
- 2 総合型地域スポーツクラブ育成プロジェクト 39
- 3 子どものスポーツプロジェクト 40
- 4 健康体力向上プロジェクト 41
- 5 スポーツシーン創出プロジェクト 42
- 6 スポーツ情報による交流プロジェクト 44
- 7 スポーツ団体協働プロジェクト 45

第7章 期待される役割 46

- 1 行政・団体 46
- 2 市民・関係機関 47

第1章 計画の概要

1 計画策定の趣旨

スポーツは「する」だけでなく、「みる」「ささえる」など、かかわり方が多様化してきています。また、子どもの心身の発育や発達に必要な体力・運動能力の低下や生活習慣病など健康面への諸問題に対し、スポーツのもつ心身両面にわたる効果が期待されています。市民の明るく豊かな生活を実現するためには、生活の一部にスポーツを取り入れ、生涯にわたって親しむことがこれまでもまして重要になっています。

こうした中で、市民一人ひとりが目的に応じて、「いつでも、どこでも、いつまでも」スポーツに親しめる生涯スポーツ社会の実現が求められており、この実現のためには、多様化した課題やニーズに対して、積極的に対応するとともに、総合的に取り組む必要があります。

こうしたことから、生涯スポーツ社会の実現に向けたスポーツ環境の整備を推進するため、柏市スポーツ振興計画を策定します。

2 計画の位置づけ

この計画は、国のスポーツ振興法に基づく「スポーツ振興基本計画」に掲げられている「生涯スポーツ社会」の実現を踏まえ、また、「柏市第四次総合計画・中期基本計画」に示しているスポーツ分野の施策をより具体化するものとして位置づけています。

3 計画の期間

計画の期間は、平成19年度（2007年度）から平成27年度（2015年度）までの9年間とします。また、進捗状況や社会情勢の変化に対応するため、中間点の平成23年度（2011年度）に見直しすることで本計画の充実を図ります。

生活習慣病

食習慣、運動習慣、休養、喫煙、飲酒などの生活習慣に起因すると考えられる病気。脳卒中、心臓病など。

スポーツ振興基本計画

平成12年9月に、スポーツ振興法に基づき、国が初めて策定した計画。長期的、総合的視点から国が目指すスポーツ振興の基本的方向を示したもの。

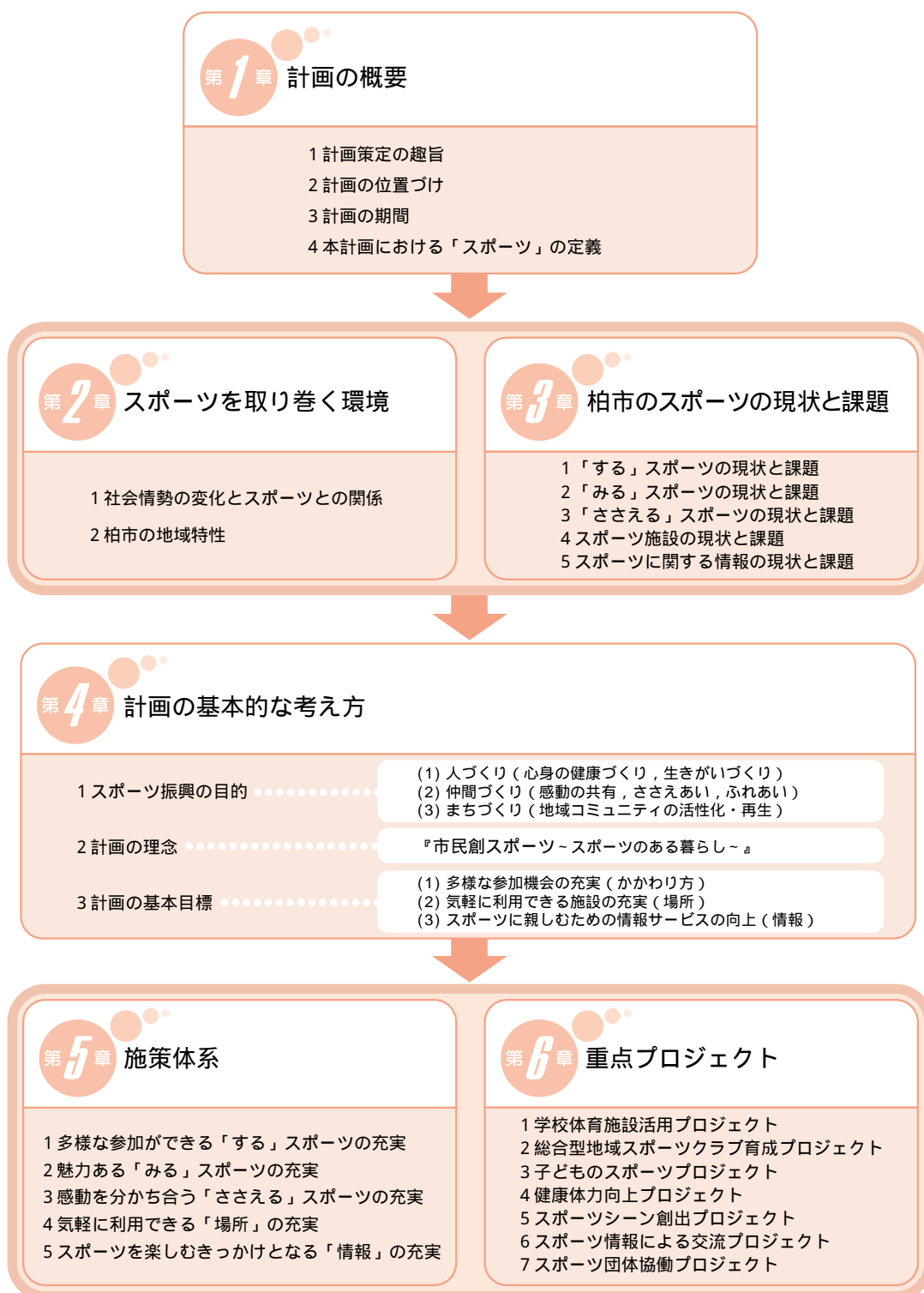
「柏市第四次総合計画・中期基本計画」

まちづくりの目標である将来都市像「みんなでつくる 安心、希望、支え合いのまち 柏」を実現するための計画。計画期間は平成13～27年度の15年間。中期基本計画は、平成18～22年度の5年間。

4 本計画における「スポーツ」の定義

本計画では、「スポーツ」を幅広く捉え、競技種目だけにとどまらず、散歩やジョギング、レクリエーション、幼児の遊びなど、レベルや内容にかかわらず身体をつかった運動全てを含んでいます。

図表 1-1 計画の構成

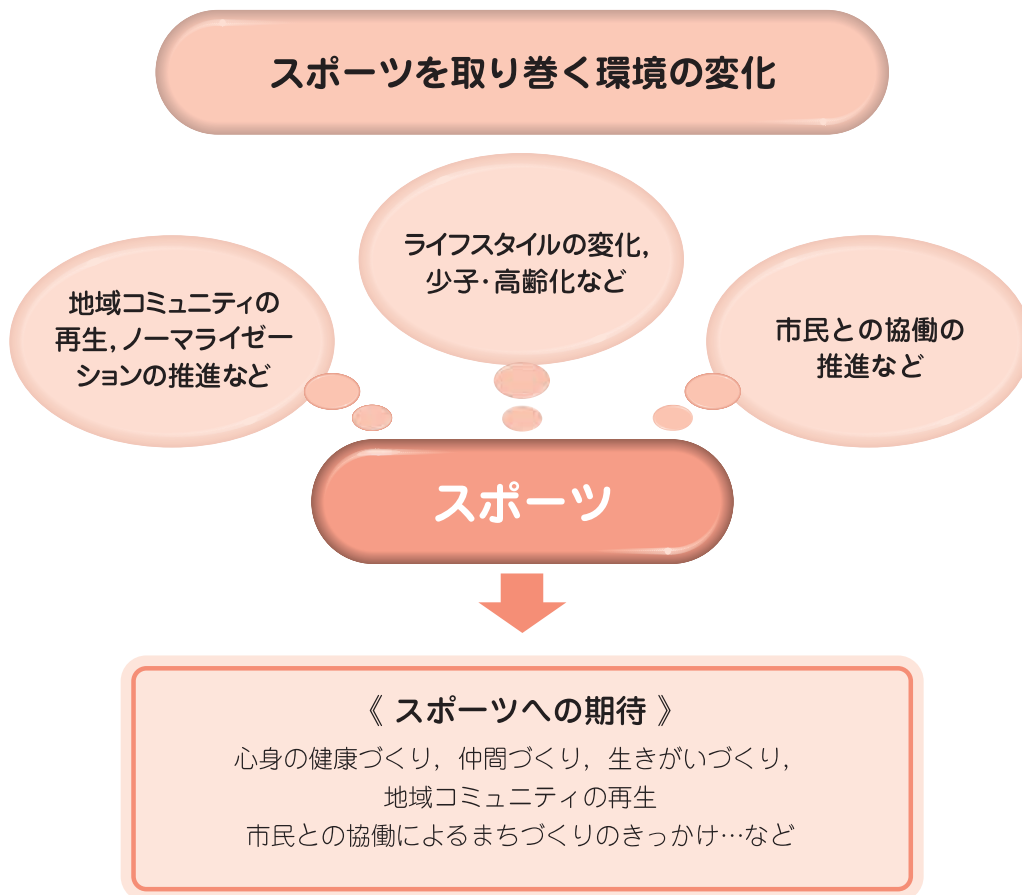


第2章 スポーツを取り巻く環境

1 社会情勢の変化とスポーツとの関係

ライフスタイルの変化や少子・高齢化の進展など、社会情勢が大きく変化し、また、地域コミュニティの再生、ノーマライゼーションの推進、市民との協働の推進などの取り組みが求められる中で、心の豊かさや充実感をもたらしてくれるものとして、スポーツへの関心や期待が高まっています。

図表 2-1 社会情勢の変化とスポーツとの関係



ライフスタイル

生活の様式・営み方。人生観・価値観・習慣などを含めた個人の生き方。

ノーマライゼーション

障害の有無や年齢などにかかわらず、すべての人が同じように生活し、活動することができる社会が本来あるべき姿であるという考え。

(1) ライフスタイルの変化とQOL(Quality of Life : 生活の質)の向上

近年、ライフスタイルの変化にともない、市民の価値観やニーズが多様化してきています。その中で、「物」ではなく「心」の豊かさを求める傾向として、週末の過ごし方の変化、健康に気をつかいながらも食事を楽しむライフスタイルなど、QOLの向上に向けた取り組みがなされています。その一つとして、スポーツへの関心や期待が高まっています。

(2) 少子・高齢化

今後、ますます少子・高齢化が進展することから、スポーツを通じて心身ともにたくましい子どもの育成や高齢者の健康の保持増進を図り、活力のある地域社会を築くことが求められています。

(3) 団塊世代への期待

2007年をはじめに、団塊の世代が定年を迎え地域に帰ってきます。この世代が充実したセカンドライフを地域で過ごすにあたり、スポーツは共通の趣味となりやすいことから、地域参加へのきっかけとなることが求められます。また、団塊の世代がこれまでに培った経験や知識が、様々なスポーツとのかかわりの中で活用されることも期待されています。

(4) 地域コミュニティの再生

核家族化や単身世帯の増加にともない、地域の間人関係が稀薄になり、近所づきあいによる相互扶助や地域コミュニティの機能が低下しています。そうした中で、スポーツへの参加による交流や連帯感、地域コミュニティの活性化や再生につながるものとして期待されています。

(5) 健康志向への対応

健康に対する意識の高まりを受けて、国は「スポーツ振興基本計画」とともに「健康日本21」を策定し、健康づくり運動の推進により運動を日常生活の中に取り入れようとしています。その中で、スポーツは健康づくりとともに車の両輪となり、国民の元気な生活環境づくりに大きな役割を果たしています。

(6) ノーマライゼーションの推進

ノーマライゼーションの理念の広がりとともに、スポーツのかかわり方は多様化してきています。これからは、スポーツの振興においても、ノーマライゼーションの推進が不可欠になってきます。

団塊の世代

1947年（昭和22年）から1949年（昭和24年）の第一次ベビーブーム時代に生まれた世代。他世代に比較して人数が多いことからいう。

セカンドライフ

第2の人生。特に、定年退職後の人生。

健康日本21

従来の病気の早期発見、早期治療から、健康を増進し発病そのものを予防することを重視した国民健康づくり運動。運動の期間は2010年度まで。

(7) 市民との協働の推進

全国的に行財政改革への取り組みが進められている中で、NPOやボランティアなどの市民の自主的な活動が活発になっています。こうした活動の中には、スポーツに関するものも多くみられます。多様なニーズや課題に対応し、効果的・効率的な施策を展開するには、行政だけでなく、市民一人ひとりやNPO、スポーツ団体などとの役割分担のもと、連携・協働を進めるとともに、スポーツ振興のための全市的な体制を築くことが求められています。

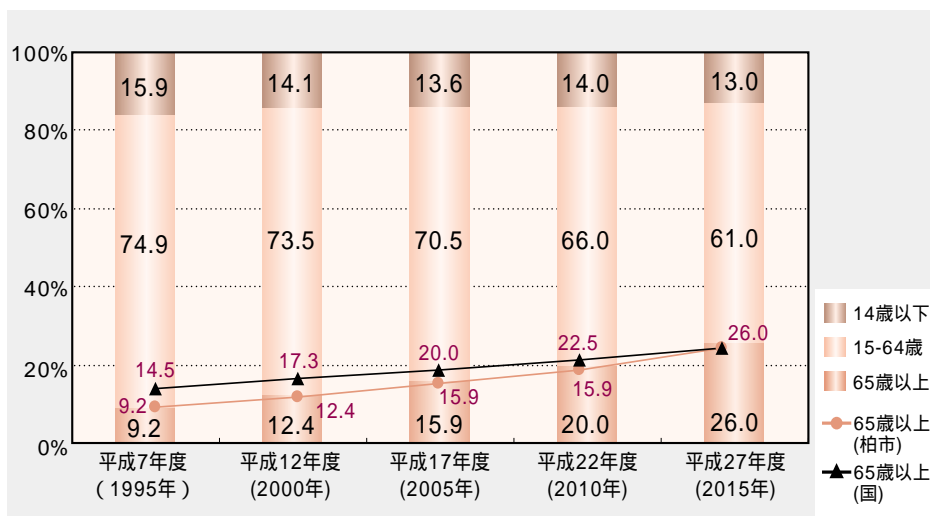
2 柏市の地域特性

本市の人口、地域ポテンシャル、プロ・実業団チーム、大学や研究機関の集積、指定管理者制度の導入、千葉国体の開催などからなる地域特性を十分に活かした計画としています。

(1) 人口（少子・高齢化の進展）

本市の人口は381,016人（平成17年10月1日現在：中期基本計画）となっています。人口構成は、14歳以下は13.6%、15歳から64歳は70.5%、65歳以上は15.9%となっています。中期基本計画では、本市の子どもの数は依然として減少傾向にあるだけでなく、高齢化が国を上回る速さで急激に進んでいくことが予想されており、スポーツ振興においても、少子・高齢化を踏まえた施策の展開が求められています。

図表 2-2 柏市の人口構成



(「柏市第四次総合計画・中期基本計画」より)

(2) 地域ポテンシャル

本市は首都圏に位置し、情報や産業、交通の基盤が充実していることから、県内外の地域との交流や相互の連携が行いやすい立地条件にあります。また、利根川や手賀沼など豊かな自然環境に恵まれているほか、テニスコートや競技場を備えた県のスポーツ施設があります。

NPO

Non Profit Organizationの略。ボランティア団体や市民活動団体など、利益を目的としない組織。非営利組織。

このような、資源を活かしたスポーツイベントを一層充実させるとともに、スポーツを通じた交流の促進が求められています。

(3) プロ・実業団チームとの連携

本市には、柏レイソルをはじめ、多くのプロ・実業団チームが拠点を置いて活動しています。こうしたチームのトップレベルの競技者や指導者などの人材を積極的に活用したスポーツ振興が求められています。

図表 2-3 市内のプロ・実業団チーム

プロ・実業団チーム名
柏レイソル（サッカー：Jリーグ）
JOMOサンフラワーズ（女子バスケットボール：Wリーグ）
積水化学女子陸上部（陸上）
柏エンゼルクロス（女子バレーボール：Vチャレンジリーグ）
谷沢野球コミュニティ千葉（野球）

(4) 大学、研究機関との連携

本市には、東京大学や千葉大学をはじめ、多様な研究領域を対象とする大学が多く立地しています。特に、柏の葉キャンパス駅周辺地区では、大学との連携によるまちづくりが進められており、今後は、これらの研究や人材、施設などを活用したスポーツ振興が求められています。

(5) 指定管理者制度の導入

本市は、スポーツ施設への指定管理者制度を平成18年4月から導入しました。これにより、施設の管理運営において住民サービスの向上を図るとともに、今後は、指定管理者による積極的なスポーツ振興事業の実施が求められています。

(6) 千葉国体の開催

平成22年、千葉県で国民体育大会が開催されます。柏市はテニス競技の会場地となっており、この千葉国体は、スポーツを「する」だけでなく、「みる」「ささえる」など、市民のスポーツへの関心と多様な参加によって、これからのスポーツ振興に大きな影響を与えることが期待されます。

このため、体育協会をはじめとした地域のスポーツにかかわる人材・組織などの連携が求められています。

指定管理者制度

公共施設の管理運営に民間の能力を活用し、より高いサービスを提供することを目的とするもの。

国民体育大会

都道府県対抗、各都道府県持ち回り方式で毎年開催されている競技大会。昭和21年（1946年）に第1回大会開催。

体育協会

市民体育・スポーツを振興するとともに、加盟団体の相互連携を図り、明るく豊かな市民生活の向上を目的とした任意の団体。現在、加盟35団体により市民体育大会やスポーツ教室など多くのスポーツ行事を行っている。

第3章

柏市のスポーツの現状と課題

本計画を策定するため、平成18年7月に柏市市政モニターアンケート「運動やスポーツに関するアンケート（以下「アンケート」という。）」を実施しました。

本章では、このアンケートの結果を中心に各種既存調査や統計を参考としながら、本市のスポーツの現状を、「する」「みる」「ささえる」といったスポーツへのかかわり方について3つの視点で分析するとともに、スポーツの実践に欠かせない「場所」や「情報」について整理しました。

図表 3-1 アンケート概要

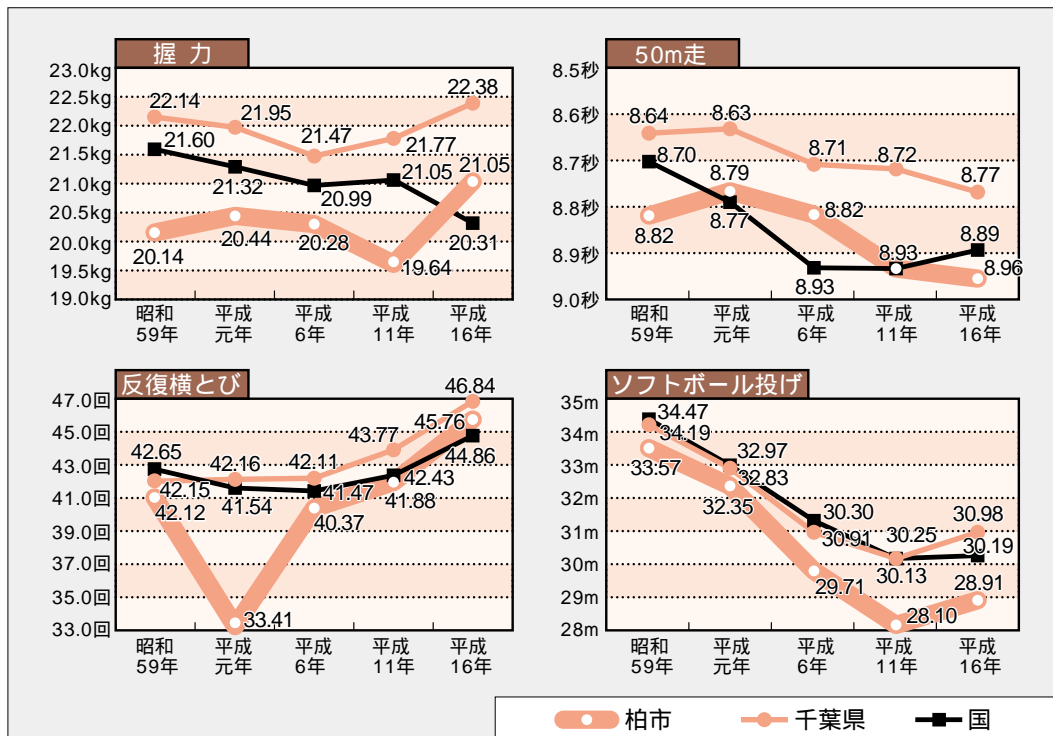
	アンケート		既存調査		
			市民調査	全国調査	新体力テスト
対象者	20歳以上の市民	市内の小学生、中学生、高校生	20歳以上の市民	20歳以上の国民	市内の小中学生
抽出	住民基本台帳から無作為抽出	小学校 9校 中学校 6校 高校 3校	住民基本台帳から無作為抽出	住民基本台帳から無作為抽出	—
発送数	1,000 人	—	4,000 人	3,000 人	—
回答数	396 人	650 人	1,781 人	2,109 人	—
回答率	39.6%	—	44.5%	70.3%	—
方法	郵送法	学校にて実施	郵送法	郵送法	各学校にてテスト実施（ただし、実施時期は学校によって異なる）
時期	平成18年7月	平成18年7月	平成15年10月	平成16年2月	平成17年度
実施主体	柏市教育委員会スポーツ課	柏市教育委員会スポーツ課	柏市企画部広報広聴課	内閣府大臣官房政府広報室	各学校

1 「する」スポーツの現状と課題

(1) 子どものスポーツ

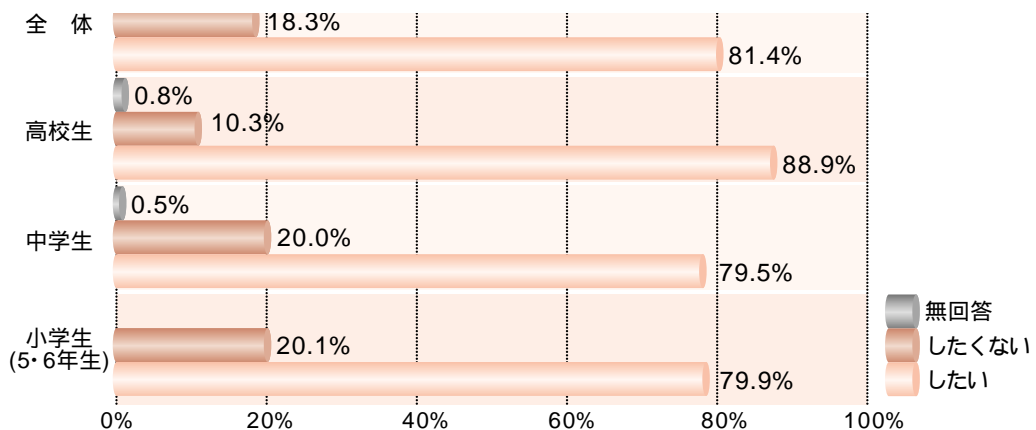
本市の子どもの体力・運動能力は、千葉県 averages を下回っているだけでなく、「走る」「投げる」などの種目は20年前と比べて低下しています。

図表 3-2 子どもの体力の推移（小学6年生男子）



アンケート調査では、子どもたちの81.4%が「スポーツをしたい」と回答しています。学年別では、小学生は79.9%，中学生は79.5%，高校生は88.9%となっています。このことから、子どもたちのスポーツに対する意欲は高いことがうかがえます。

図表 3-3 子どものスポーツへの意欲（平成18年度「アンケート」）



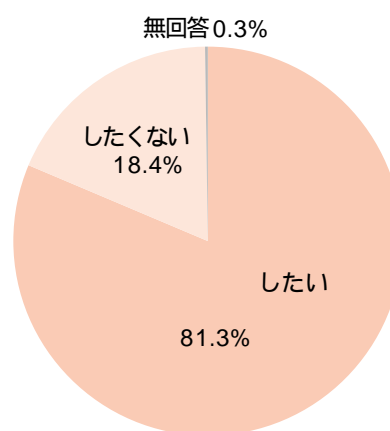
子どものスポーツの課題

子どもの体力低下の問題に対し，これからは社会全体で子どもの運動機会を確保し，体力の向上を図ることが必要です。そのため，外遊びを奨励しスポーツの楽しさ，重要性を啓発することで，子どものスポーツに対する関心・意欲を高めるとともに，学校だけでなく地域で安心してスポーツを楽しめる環境が必要です。

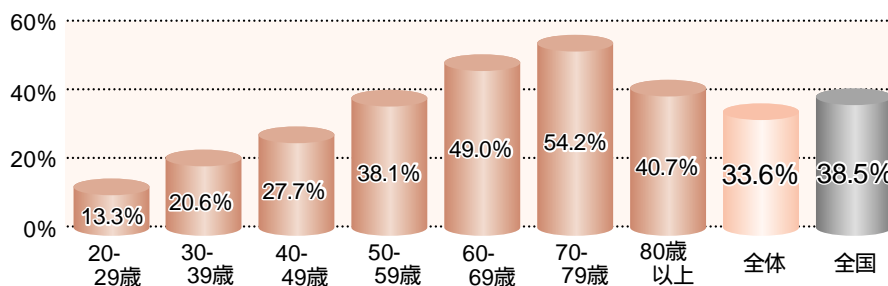
(2) 成人のスポーツ

アンケート調査では，成人の81.3%が「スポーツをしたい」と回答しています。しかしながら，週1回以上のスポーツの実施率は33.6%にとどまっており，全国平均の38.5%（平成16年度）を下回っています。

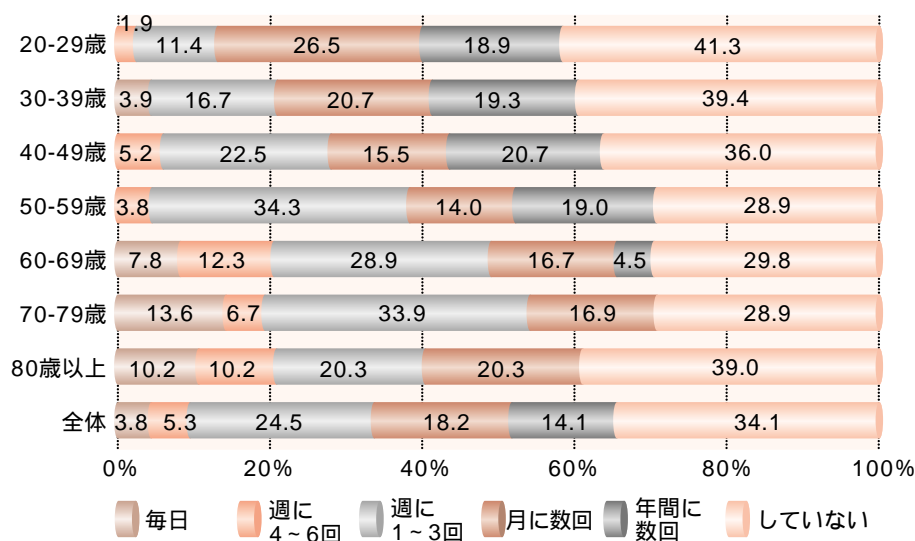
図表 3-4 スポーツへの意欲
（平成18年度「アンケート」）



図表 3-5 週1回以上のスポーツ実施率（平成18年度「アンケート」）



図表 3-6 スポーツ実施率（平成18年度「アンケート」）



実施率は，スポーツへの意欲（図表3-4）で「したくない」「無回答」をしていないとして算出しています。

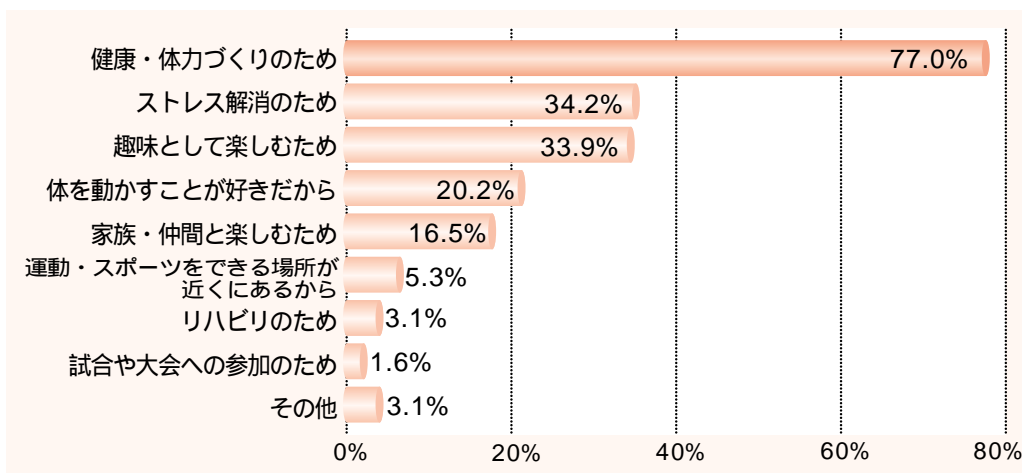
現在行っている種目を年代別でみると、ほとんどの年代で散歩やウォーキングが1位または2位となっています。このことから、手軽にできるスポーツとして散歩やウォーキングが広く生活の中に浸透していることがうかがえます。

図表3-7 実施している種目（平成18年度「アンケート」）

年代	1位	2位	3位
20～29歳	テニス	水泳, その他	散歩, バドミントン フットサル
30～39歳	散歩	ウォーキング, ゴルフ	筋力トレーニング テニス, ヨーガ, 水泳
40～49歳	散歩	ウォーキング, テニス	ジョギング・ランニング, ボウリング, 水泳
50～59歳	ウォーキング	ゴルフ, 水泳	散歩
60～69歳	散歩	ウォーキング	水泳
70～79歳	散歩	ウォーキング	
80歳以上	散歩, 健康・美容体操	グラウンド・ゴルフ ゴルフなど6種目	グラウンド・ゴルフ ゴルフ

スポーツをする理由の1位は「健康・体力づくりのため」で、2位は「ストレス解消のため」、3位は「趣味として楽しむため」でした。このことから、市民の健康に対する意識が高いことや、自由時間の過ごし方としてスポーツ活動を楽しんでいることがうかがえます。

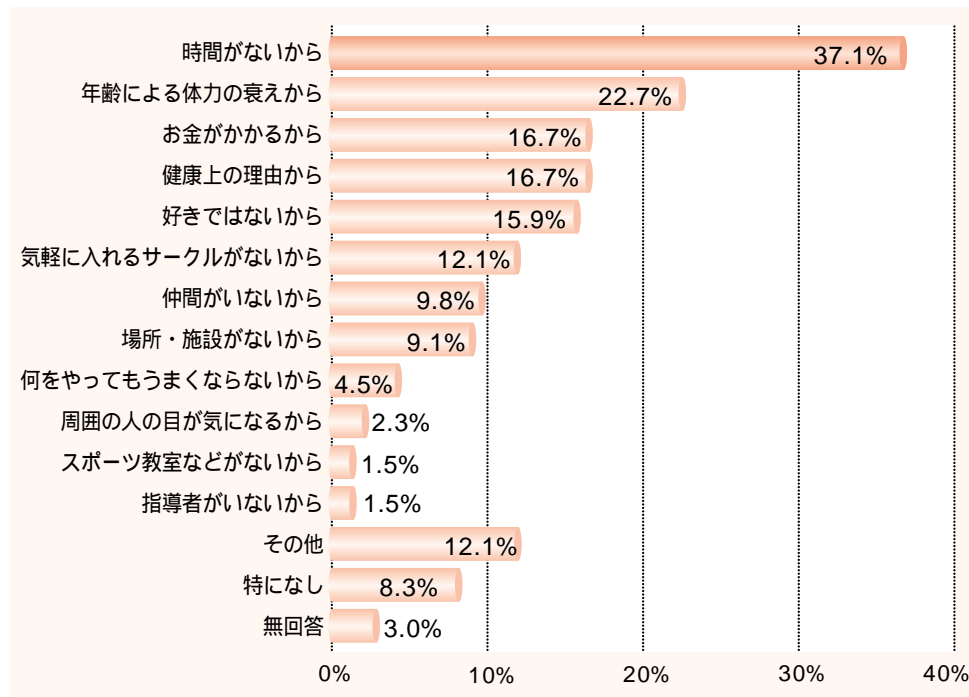
図表3-8 スポーツをする理由（平成18年度「アンケート」）



成人のスポーツの課題

市民のスポーツへの関心や意欲は高いものの、継続的に実施するまでにはいたっていません。その理由として「時間がない」ことが一番あげられています。市民が継続的にスポーツに親しむようになるためには、個々のライフスタイルに応じた施設の利用方法と多様な参加機会が必要です。

図表 3-9 スポーツをしない理由（平成18年度「アンケート」）



(3) 高齢者のスポーツ

成人の週1回以上のスポーツ実施率は、70歳代が最も高く54.2%となっており、2位は60歳代の49.0%でした。このことは、仕事や子育てから解放されたことによる自由時間の増大や、年齢による健康や体力に対する意識の一層の高まりが、高齢者のスポーツの実施率を高めているものと思われます。（図表3-5参照）

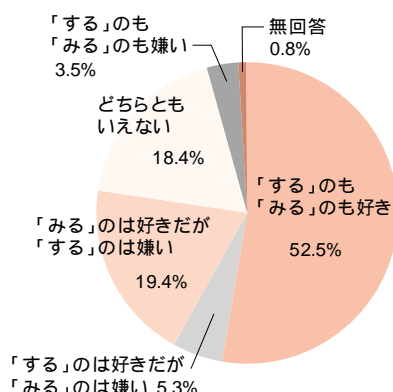
高齢者のスポーツの課題

スポーツのもつ健康や体力づくりの効果を活かすだけでなく、スポーツが多様な活動を通じた交流の場として、生きがいづくりにつながる必要があります。

2 「みる」スポーツの現状と課題

アンケート調査では、市民の71.9%が「スポーツをみることは好き」と回答しています。このことから、市民のスポーツへの関心は高く、スポーツを「観る」ことが生活の中に定着していることがうかがえます。

図表 3-10 スポーツへの関心
(平成18年度「アンケート」)



本市は、Jリーグ「柏レイソル」のホームタウンになっていることから、Jリーグを身近に感じられる恵まれた環境にあります。特に、スタジアムでの生のスポーツ観戦は、日常では体験できない興奮や一体感を味わうことができます。「柏レイソル」は、地域にスポーツ観戦の楽しみをもたらすとともに、スポーツのまちを推進する本市のイメージに大きく貢献しています。

また、Jリーグのほかにも、観て楽しめるスポーツイベントが多く開催されています。

図表 3-11 市内で開催される主なスポーツイベント

種 目	備考(チーム・選手など)
Jリーグ(サッカー)	柏レイソル
Wリーグ(女子バスケットボール)	JOMOサンフラワーズ
Vチャレンジリーグ(女子バレーボール)	柏エンゼルクロス
手賀沼エコマラソン	積水化学女子陸上部
トップリーグ(ラグビーフットボール)	NECグリーンロケッツ
その他	全国高等学校サッカー選手権大会 国民体育大会テニス競技(平成22年)

スポーツ観戦の新しい楽しみ方として、2002年のサッカーのワールドカップ大会での実施を契機に、パブリック・ビューイングという形態が注目を集めています。

課 題

スポーツとのかかわり方で、「みる」ことは気軽に取り組みやすいことから、市民がJリーグの試合や手賀沼エコマラソンなどのスポーツイベントを観て楽しめるよう、その魅力を高めていくことが必要です。

ホームタウン

プロスポーツチームなどの本拠地。特に、Jリーグでは、「Jクラブと地域が一体となって実現する、スポーツが溶け込み人々に心身の健康と生活の楽しみを与えることができるまち」と定義。

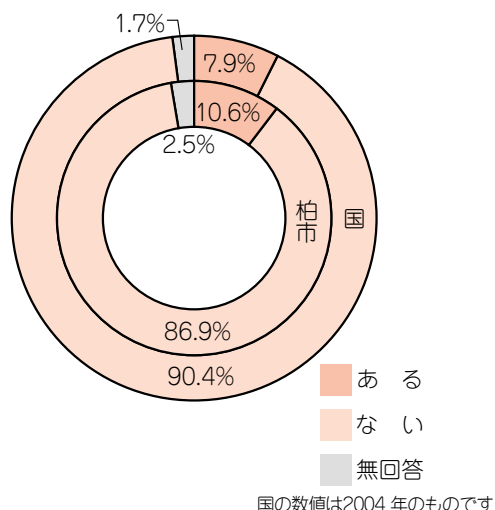
パブリック・ビューイング

スポーツにおける、大型映像装置を利用した観戦イベント。試合の行われていないスタジアムや駅前の広場、特設会場などで行われる。

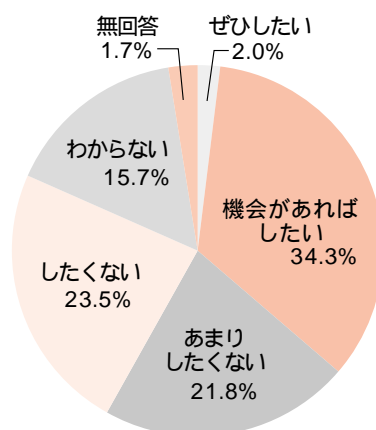
3 「ささえる」スポーツの現状と課題

アンケート調査では、市民の10.6%がスポーツボランティアの経験があると回答しています。また、スポーツボランティアをしたことがないと回答した人のうち、「やってみたい」と回答した人の割合も36.3%と、ボランティアとしてスポーツにかかわることへの関心や意欲は高いことがうかがえます。

図表 3-12 スポーツボランティアの経験（平成18年度「アンケート」）



図表 3-13 スポーツボランティア参加意欲（平成18年度「アンケート」）



課題

多様化するスポーツへのかかわり方の中で、「ささえる」活動の意義や価値が高まってきています。今後は、スポーツの分野でも、スポーツボランティアなどの存在が積極的に活躍できる環境が必要です。

スポーツボランティア

地域社会やスポーツ団体・クラブ、各種スポーツイベントなどにおいて、スポーツに関する知識や技能・時間を自発的に提供し、スポーツを盛り上げるための活動を行うボランティア。

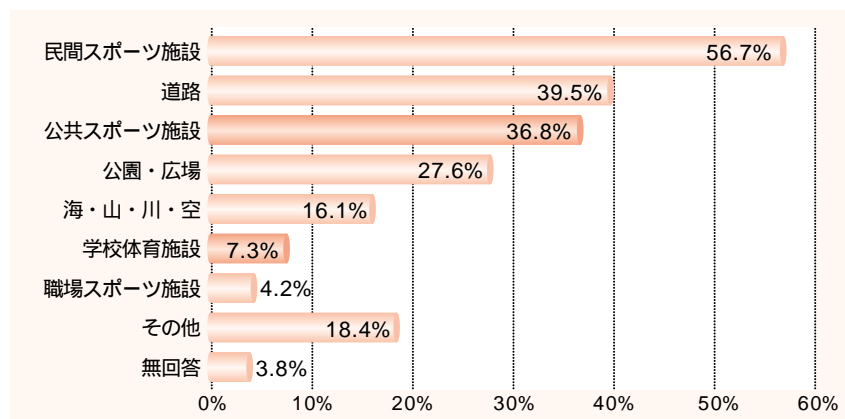
4 スポーツ施設の現状と課題

(1) 公共スポーツ施設

公共スポーツ施設の週末や休日の利用は各種大会やイベントで飽和状態にありますが，一方で，平日の利用は少なく，利用の促進が必要な状況にあります。

アンケート調査では，市民がスポーツに親しんでいる場所の1位は「民間スポーツ施設」で，2位は「道路」，3位は「公共スポーツ施設」となっています。

図表 3-14 スポーツをしている場所（平成18年度「アンケート」）



(2) 学校体育施設

小中学校の校庭や体育館などの学校体育施設を，身近なスポーツ活動の場として開放しています。しかしながら，小学校，中学校ともに利用率が高い状況にあるとともに，利用は地域のクラブやサークルによる登録制であるため，個人での利用ができません。

図表 3-15 学校体育施設開放の状況（平成17年度）

	学校数 (校)	開放校 (校)	登録団体		開 放 日	利用者数 (延べ人数:人)
			団体数	会員数(人)		
小学校	41	41	304	9,376	土・日・祝日，長期休業中	342,594
中学校	20	20	121	2,629	平日夜間（18時～21時）	81,335
計	61	61	425	12,005		423,923

(3) 総合型地域スポーツクラブ

地域における多様性をもった新しいクラブの形態として，総合型地域スポーツクラブの創設・育成が全国的に進められています。本市では，平成18年4月から，高田倶楽部が小学校を拠点とした活動をはじめており，週末を中心にグラウンドゴルフ，サッカー，卓球などを楽しんでいます。

課 題

一人でも多くの市民がスポーツに親しめる場所を確保するためには，公共スポーツ施設や学校体育施設の効果的・効率的な活用が必要です。また，公共スポーツ施設のほかにスポーツに親しめる空間を確保することが求められます。

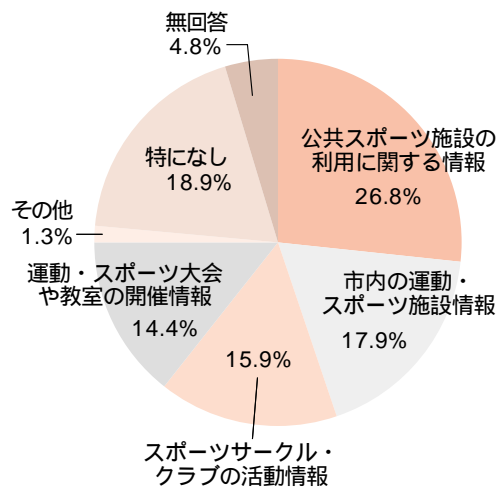
総合型地域スポーツクラブ

多種目，多世代を基本に，地域住民が自主的に運営するスポーツクラブ。生涯スポーツ振興の主要な施策として期待されている。

5 スポーツに関する情報の現状と課題

アンケート調査では、市民が知りたい情報の1位は「公共スポーツ施設の利用に関する情報」で、2位は「市内の公共以外のスポーツ施設情報」、3位は「スポーツサークル・クラブの活動情報」でした。

図表 3-16 入手したい情報
(平成18年度「アンケート」)



施設利用の利便性の向上を図るため、平成13年度から「スポーツ施設予約システム」を導入しています。このシステムにより、近隣センターやスポーツ施設の利用者端末、インターネットから、施設の空き状況の確認や予約申込ができます。

課題

市民のスポーツへの参加意欲を促進するためには、公共スポーツ施設に関するだけでなく、幅広いスポーツ関連情報の提供や、インターネットの活用により容易に情報が入手できる環境が必要です。また利用者端末についても、施設の利用に関するだけでなく、スポーツ大会やイベントなど、幅広いスポーツ情報が入手できる機能が求められます。

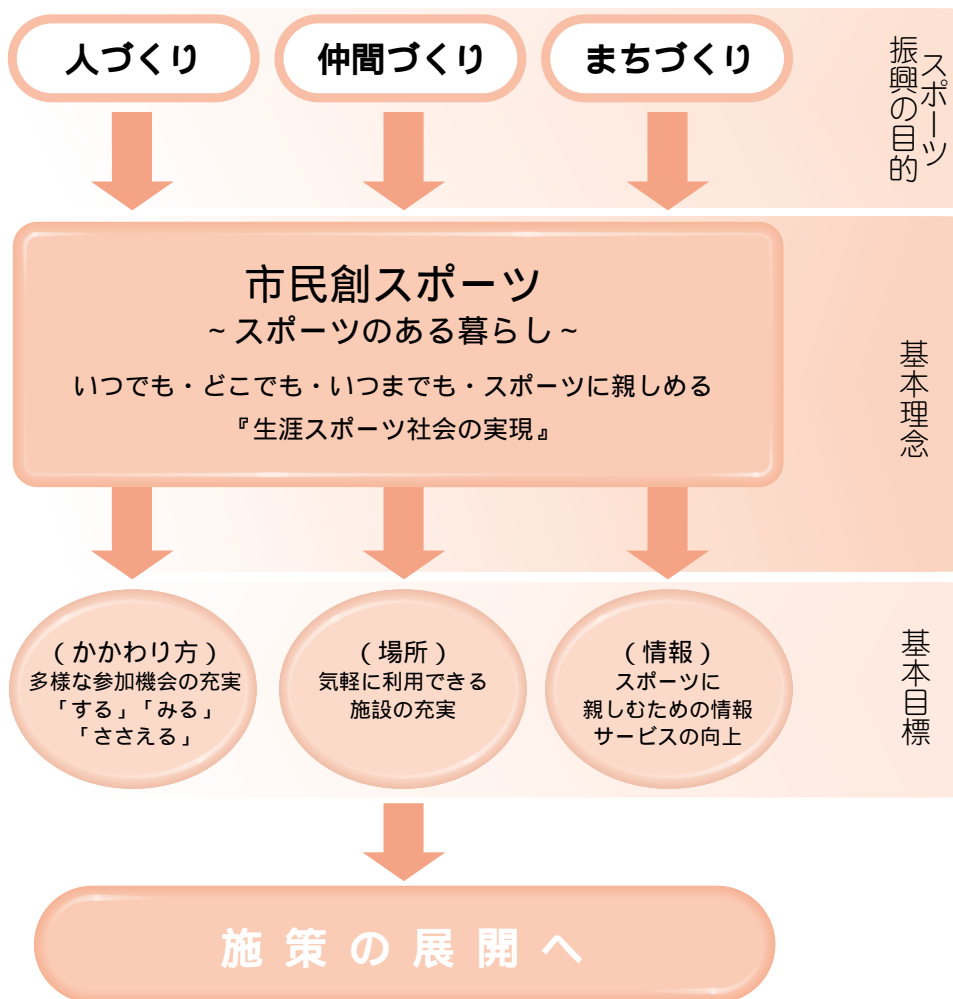
利用者端末

市役所（本庁、沼南庁舎）、近隣センター、公共スポーツ施設に設置されているタッチパネル式の機器。近隣センター施設・スポーツ施設の予約や空き状況の確認が可能。

第4章 計画の基本的な考え方

スポーツを取り巻く環境や本市のスポーツの現状と課題を踏まえ、計画の基本理念を設定します。また、それに基づいた基本目標を掲げ、本計画の施策を展開していきます。以下は、計画全体の基本的な考え方です。

図表 4-1 計画の基本的な考え方



1 スポーツ振興の目的

スポーツの目的

これからのスポーツ振興は、競技力の向上や健康・体力づくりにとどまらず、生きがいや仲間づくり、地域コミュニティの形成、ひいてはまちづくりに大きく貢献することが期待されています。本計画では、「人づくり」「仲間づくり」「まちづくり」の3つの視点から本市のスポーツ振興の目的を整理します。

人づくり

科学技術の高度化にともない、運動不足による体力低下や生活習慣病の増加と低年齢化が社会問題となっている中、スポーツは、競技力の向上だけでなく、心身の両面にわたる健康の保持増進や個人の生きがいづくりに貢献するものとして期待されるようになってきました。体力は人間のあらゆる活動の源であり、意欲や気力の充実に大きくかかわっていることから、スポーツによる元気な人づくりが求められます。

[心身の健康づくり、生きがいづくり]

仲間づくり

情報化の進展により、対面でのコミュニケーションが不足がちになり、他者とのかわり方にさまざまな問題が生じています。そのような問題に対し、スポーツは、感動を共有したり、支え合ったりすることで、家族、友人、仲間との絆を深めていくきっかけとなることが期待されます。

[感動の共有、ささえあい、ふれあい]

まちづくり

都市化の進展にともない、人と人とのつながりが稀薄化する中で、「する」「みる」「ささえる」といった多様なかわり方ができるスポーツは、地域コミュニティの活性化や再生につながるものとして期待されます。

[地域コミュニティの活性化・再生]

2 計画の基本理念

本市におけるスポーツ振興の目的を踏まえ、全ての市民がさまざまなかたちでスポーツに親しむことができるように、本市のスポーツ文化を育む考え方として、「市民創スポーツ～スポーツのある暮らし～」を基本理念とします。

図表 4-2 計画の基本理念

市民創スポーツ
～スポーツのある暮らし～

この基本理念には、みんなで力を合わせて、自分に合ったスポーツの楽しみ方や空間を見つけ出していく（創り出していく）、そうした思いが込められています。

3 計画の基本目標

計画の基本理念に示した本市の目指す生涯スポーツ社会を実現するため、「かかわり方」「場所」「情報」といった3つの視点から基本目標を掲げます。

(1) かかわり方：多様な参加機会の充実

市民一人ひとりが、それぞれのライフステージ、ライフスタイルにあったスポーツを見つけだすことができたときに、はじめてスポーツは生活の中に定着していきます。そのためには、スポーツを「する」だけでなく、「みる」「ささえる」などの多様なかかわりから、それぞれが自分に合った“フィッティング”を重視することが大切です。本計画ではそのような基本的な考え方に沿って、あらゆる市民が楽しく、気持ち良くスポーツに親しめるように、多様な参加機会の充実を進めていきます。

[数値目標]

市民のスポーツ実施率（週1回以上）の向上
週1回以上のスポーツを実施する人の割合を50%にします
参考：アンケートによる週1回以上のスポーツ実施率は33.6%です
（平成18年度）

(2) 場所：気軽に利用できる施設の充実

生活の中にスポーツを定着させるためには、気軽に利用できるスポーツ施設の充実は欠かせません。そのため、既存施設の有効活用の促進、大学や企業の協力による利用施設の拡充などの環境の整備を進めていきます。

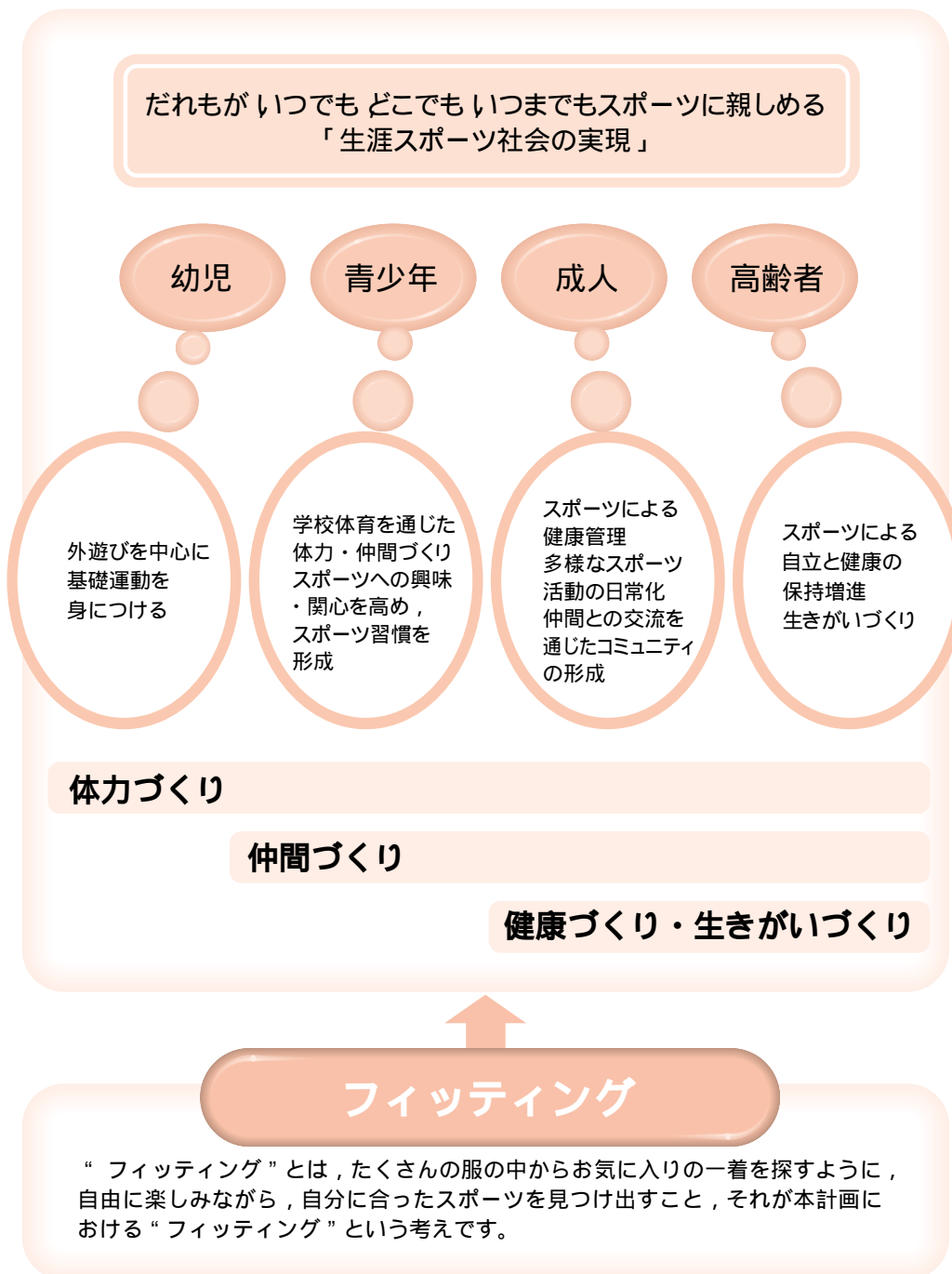
ライフステージ

幼年期・児童期・青年期・壮年期・老年期など、人の一生を段階的に区分したもの。

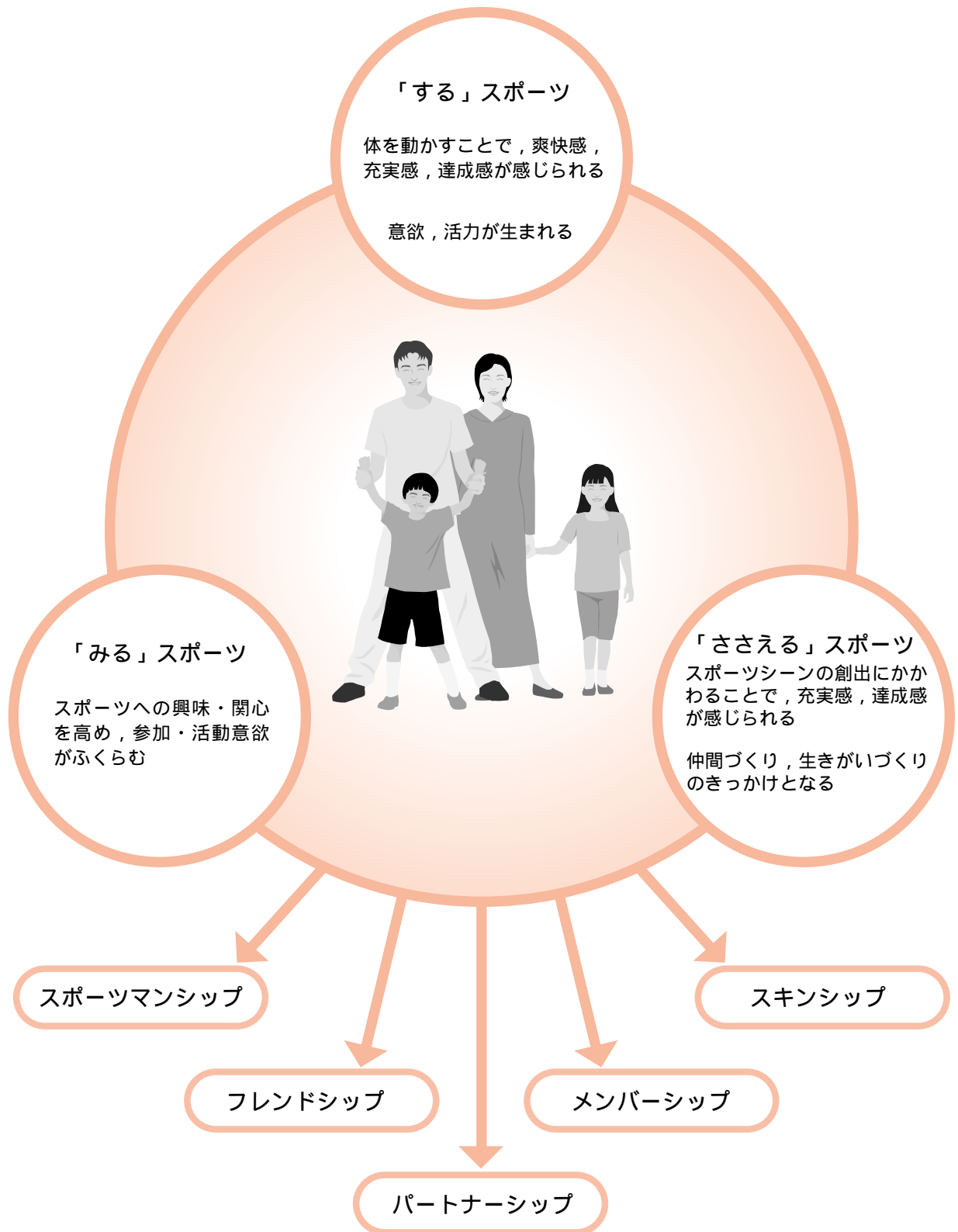
(3) 情報：スポーツに親しむための情報サービスの向上

生涯スポーツの推進には、市民のニーズに応じた情報の提供は欠かせません。そのため、市民による情報の発信やスポーツ施設への情報コーナーの設置など、情報サービスの充実を進めていきます。また、スポーツの意義や必要性を理解し、自らスポーツに親しむ市民を育成するため、啓発事業にも積極的に取り組んでいきます。

図表 4-3 生涯スポーツ社会のイメージ



図表 4-4 スポーツのかかわり方 イメージ図



第5章 施策体系

施策体系は、前章の基本目標を推進していくために必要な取り組みを施策構成として整理したものです。本計画では、「多様な参加ができる『する』スポーツの充実」「魅力ある『みる』スポーツの充実」「感動を分かち合う『ささえる』スポーツの充実」「気軽に利用できる『場所』の充実」「スポーツを楽しむきっかけとなる『情報』の充実」という5つの基本施策に分けて個々の施策を体系化するとともに、これらの施策の推進にあたっては、「当面の取り組み」と「中長期的な取り組み」に分類しています。

また、具体的な施策の展開にあたっては、庁内関係部局はもちろんのこと、体育協会などの市民スポーツ団体やプロ・実業団チーム等との協力・連携を図るとともに、市の非常勤職員である体育指導委員と一体となって取り組んでいきます。

図表 5-1 施策体系

基本施策 1 多様な参加ができる「する」スポーツの充実

基本施策 2 魅力ある「みる」スポーツの充実

基本施策 3 感動を分かち合う「ささえる」スポーツの充実

基本施策 4 気軽に利用できる「場所」の充実

基本施策 5 スポーツを楽しむきっかけとなる「情報」の充実

体育指導委員

国のスポーツ振興法に基づき市町村教育委員会が定める非常勤職員。地域のスポーツ振興を図るため、協議会を組織し、スポーツに関する各種教室での指導や各種イベント等の企画・運営など、幅広く活躍。

図表 5-2 施策体系図

基本施策 1 多様な参加ができる「する」スポーツの充実

(1) 気軽に楽しめるスポーツの充実

市民スポーツ大会・イベントの開催

スポーツ教室の開催

初心者向けのスポーツイベントの開催

親子スポーツの促進

スポーツによる健康づくりの推進

外遊びの推進

市民スポーツの設定

ニュースポーツイベントの推進

(2) 競技力向上の促進

競技スポーツ指導者の確保

指導者派遣制度の確立

医・科学的トレーニングの導入

(3) 総合型地域スポーツクラブの育成

活動拠点の確保

クラブ運営スタッフの確保

広報活動の推進

基本施策 2 魅力ある「みる」スポーツの充実

(1) 観戦スポーツの推進

スポーツ観戦情報の提供

スポーツ大会の誘致の検討

(2) 魅せるスポーツの推進

ストリートイベントの開催

(3) 魅力あるイベントづくりの推進

イベントづくり研修会の開催

メディアの活用

パブリック・ビューイングの検討

基本施策 3

感動を分かち合う「ささえる」スポーツの充実

(1) スポーツボランティアの育成

スポーツボランティアの育成

活動の場の確保

広報活動の推進

(2) スポーツリーダーの育成

競技スポーツ指導者の確保（再掲）

生涯スポーツ指導者の確保

体育指導委員の充実

大学・企業との連携

指導者派遣制度の確立（再掲）

(3) 組織・制度の充実

（仮称）スポーツ連絡協議会の設置

奨励制度の充実

基本施策 4

気軽に利用できる「場所」の充実

(1) 公共スポーツ施設の有効活用の促進

定期的な団体利用の検討

スポーツ教室の開催（再掲）

外遊びの推進（再掲）

(2) 学校体育施設の活用の促進

学校体育施設開放事業の充実

管理運営体制の強化

(3) 身近なスポーツ施設の有効活用

大学・企業スポーツ施設の利用促進

基本施策 5

スポーツを楽しむきっかけとなる「情報」の充実

(1) スポーツ情報システムの整備

インターネットを利用した情報の提供

スポーツ情報の一元化

スポーツ観戦情報の提供（再掲）

(2) 市民による情報提供の推進

市民による情報提供の推進

(3) 利用者端末の機能の充実

利用者端末の機能の充実

1 多様な参加ができる「する」スポーツの充実

体力は意欲や気力の充実に大きくかかわっており、「生きる力の源」となる重要なものです。体を動かすことによる爽快感、目標を達成したときの喜びや充実感は、さらなる意欲を駆り立てます。

生活に潤いをもたらすものの一つとして、スポーツが日々の暮らしの中に取り入れられるように、多様な参加機会の拡充を図ります。

(1) 気軽に楽しめるスポーツの充実

全ての市民が、ライフステージに応じてスポーツを「する」きっかけとなるための取り組みを推進します。

～ 生涯を通じたスポーツ活動の基本的な考え方 ～

■こどものスポーツ

幼児期から少年期にかけての外遊びやスポーツの体験は、心身の健全な発育・発達に大きな影響を与えるとともに、成人後の豊かなスポーツライフを築くための基盤となります。

そのため、外遊びやスポーツの楽しさを広める機会を充実させるとともに、学校、家庭、地域が連携してスポーツに親しめる環境の整備に取り組みます。

■成人のスポーツ

仕事や子育てなどが生活の中心となっている成人層に対しては、仕事帰りや休日、家事や育児の合間など、個々の生活リズムに合わせたプログラムの提供や施設の利用を促進します。また、生活習慣病予防などの健康・体力づくりプログラムの提供を促進します。

■高齢者のスポーツ

高齢者にとって、スポーツは健康や生きがいを推進するものとして重要な役割を果たします。そのため、高齢者の運動能力に合わせたプログラムの提供、体力テストの実施、技術の向上を目指したイベントなど、参加機会の充実を図ります。

■障害者のスポーツ

障害の有無にかかわらず、誰もが一緒にできるスポーツの魅力を活かし、さまざまな人々との相互理解を深める交流事業を開催するなど、スポーツを通じたノーマライゼーションを推進します。

《具体的な施策》

市民スポーツ大会・イベントの開催

市民体育大会や市民マラソンなど、既存の市民スポーツ大会やイベントの充実を図ります。

スポーツ教室の開催

スポーツへの参加を促進するため、体育協会や指定管理者、民間スポーツクラブなどによるスポーツ教室を開催します。

初心者向けのスポーツイベントの開催

誰もが気軽にスポーツを楽しめるように、初心者向けのスポーツイベントとしてスポーツフェスタの充実を図るとともに、スポーツチャレンジDAYや、学校体育施設を活用した地域とのスポーツ交流DAYを検討します。

親子スポーツの促進

子どもの体力づくりと保護者や家族のスポーツへの参加を促進するため、子どもを通じた親子・家族向けのプログラムの提供を促進します。

スポーツによる健康づくりの推進

健康意識の向上を図るため、体力測定の結果をデータベース化したサービスを提供し、日々の健康・体力づくりを促進するとともに、医療機関や大学のスポーツ研究部門などとの連携によるプログラムの開発・提供を検討します。

外遊びの推進

子どもの運動機会の充実を図るため、放課後のグラウンドを活用したスポーツプログラムを実施します。また、公園や広場などの屋外において楽しめるスポーツを普及・促進します。

市民スポーツの設定

子どもから高齢者まで、遊びから競技まで幅広い楽しみ方ができるスポーツを“市民スポーツ”として普及・促進します。

ニュースポーツイベントの推進

障害者の参加機会の充実を図るため、関係部局と連携してニュースポーツを中心としたスポーツ事業を推進します。

ニュースポーツ

新しいスポーツというわけではなく、スポーツの原点である「楽しさ」を追求し、年齢や体力に関係なく誰でも楽しむことができるスポーツの総称。グラウンドゴルフ、インディアカ、ベタンクなど。

(2) 競技力向上の促進

身体能力や技術力の向上を目的として、体育協会などが従来から推進してきた競技大会やスポーツ教室を促進するとともに、プロ・実業団チームや民間スポーツクラブの指導者との連携による指導体制の充実を図ります。

《具体的な施策》

競技スポーツ指導者の確保

競技力の向上を目指す市民のために、プロ・実業団チームや民間スポーツクラブと連携して層の厚い指導者を確保するとともに、これらの人材を活用した講習会の開催などにより、スポーツ団体指導者のスキルアップを図ります。

指導者派遣制度の確立

指導者や審判など地域のスポーツ人材が、市民や学校、団体などのニーズに応じて活躍できる機会を確保するため、派遣制度の構築に取り組みます。

医・科学的トレーニングの導入

大学などの研究機関などと連携して、最新のスポーツ医・科学的トレーニング方法を紹介します。

(3) 総合型地域スポーツクラブの育成

身近な生活圏で気軽にスポーツに親しめる環境として、総合型地域スポーツクラブの育成を促進します。そのため、これまでのクラブづくりを踏まえ、スポーツを「する」「みる」「ささえる」といった多様な参加ができるように、基本理念を確立します。また、クラブが活動する拠点の確保や、クラブ運営のためのスタッフの確保、市民に総合型地域スポーツクラブを知ってもらうための広報活動を支援します。

《具体的な施策》

活動拠点の確保

総合型地域スポーツクラブの活動拠点として、学校体育施設や公共スポーツ施設の利用を検討します。

クラブ運営スタッフの確保

総合型地域スポーツクラブの運営にかかわるスタッフを育成・確保します。

広報活動の推進

総合型地域スポーツクラブの認知度を高めることを目的として、パンフレットの発行や配布などの広報活動を推進します。

スキルアップ

技術や能力を向上させること。自分を磨いていくこと。

実施時期

気軽に楽しめるスポーツの充実	市民スポーツ大会・イベントの開催	当面
	スポーツ教室の開催	当面
	初心者向けのスポーツイベントの開催	当面
	親子スポーツの開催	当面
	スポーツによる健康づくりの推進	当面
	外遊びの推進	当面
	市民スポーツの設定	中長期
	ニュースポーツイベントの推進	当面
競技力向上の推進	競技スポーツ指導者の確保	当面
	指導者派遣制度の確立	中長期
	医・科学的トレーニングの導入	中長期
総合型地域スポーツクラブの育成	活動拠点の確保	当面
	クラブ運営スタッフの確保	当面
	広報活動の推進	当面

2 魅力ある「みる」スポーツの充実

スポーツは「する」だけでなく、観て楽しむこともできます。スポーツとのかかわり方で「みる」ことは誰でも気軽に取り組めることから、スポーツの裾野を広げることにつながっていきます。特に、高いレベルのパフォーマンスは、観る者に感動を与え、スポーツへの関心や意欲を高めます。

柏レイソルなど国内のトップリーグで活躍するチームと連携して、「みる」スポーツの魅力を高めるとともに、高いレベルのスポーツイベントの開催・誘致に努めます。

(1) 観戦スポーツの推進

「みる」スポーツへの取り組みを促進するためには、市民の関心が高いスポーツイベントが必要です。そのため、競技団体や企業との連携により、高いレベルのスポーツにふれる機会の提供に努めます。

また、柏レイソルなどのチームは、地域にスポーツ観戦の楽しみをもたらします。この恵まれた環境を活かして、身近なチームの応援を通じた「生のスポーツ観戦」を地域の文化として育む環境をつくります。そのため、チームとの交流機会の充実を図り、市民がチームに関心を持ち、愛着を持って応援できるムードをつくります。

《具体的な施策》

スポーツ観戦情報の提供

大規模イベントやトップアスリートが参加する大会だけでなく、市内で開催されるスポーツ大会や市内のチーム・選手などが出場する大会の情報提供を推進します。

スポーツ大会の誘致の検討

体育協会、各種団体と連携して、高いレベルの大会の誘致を検討します。

(2) 魅せるスポーツの推進

これからは、プロスポーツや大規模イベントばかりでなく、身近なスポーツイベントを魅力あるものとして「魅せる」ことも必要です。そのため、競技場や体育館などの既存のスポーツ施設だけでなく、駅前の空間などを活用したイベントの開催を推進します。

《具体的な施策》

ストリートイベントの開催

ストリートでのスポーツは、そのエンターテインメント性の高さから、「する」「みる」の両面から人気を集めています。市民のスポーツへの関心を高めるため、競技団体と連携してストリートでのスポーツイベントの開催を検討します。

(3) 魅力あるイベントづくりの推進

スポーツ観戦をより魅力的なものにするためには、試合はもちろんのこと、会場全体が楽しい時間を過ごせる場所であることが必要です。そのため、会場を盛り上げるための音楽、MCなどの演出や、観客参加型アトラクションの実施など、魅力あるイベントづくりを推進します。

《具体的な施策》

イベントづくり研修会の開催

体育協会、体育指導委員などのスポーツ団体を対象に、市民の関心を高める魅力あるイベントづくり研修会を開催します。

メディアの活用

スポーツの魅力を引き出すためには、メディアによる盛り上げは欠かせません。地域に密着したメディアとの連携を図り、テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、ホームページなど、多様な媒体を通じたスポーツのPRを検討します。

パブリック・ビューイングの検討

市民のスポーツへの関心を高めるため、柏駅前の大型スクリーン（エキサイトビジョン）の活用を検討します。

実施時期

観戦 スポーツの 推進	スポーツ観戦情報の提供	当面
	スポーツ大会の誘致の検討	中長期
魅せる スポーツの 推進	ストリートイベントの開催	当面
魅力あるイ ベントづく りの推進	イベントづくり研修会の開催	当面
	メディアの活用	当面
	パブリック・ビューイングの検討	中長期

MC

Master of Ceremoniesの略。イベントやコンサートなどの司会、進行役。演技や演奏の間に入れるトーク。

3 感動を分かち合う「ささえる」スポーツの充実

スポーツリーダーやスポーツボランティアの存在は、これからのスポーツの振興に欠かせないものです。そのため、研修機会の充実や活動体制の整備によりスポーツリーダーやスポーツボランティアの育成に取り組みます。

また、スポーツを「ささえる」活動を「する」「みる」ことへの補助的な役割としてだけでなく、スポーツシーンを創造する役割として親しめる環境を整備します。

(1) スポーツボランティアの育成

スポーツの分野でのボランティア活動を気軽に楽しめる仕組みづくりを推進します。

《具体的な施策》

スポーツボランティアの育成

スポーツイベント時のスタッフや審判，スポーツ団体や総合型地域スポーツクラブの運営などのボランティアを育成するため，各種講習会を開催します。

活動の場の確保

スポーツボランティアの定期的な活動を推進するため，手賀沼エコマラソンなどのスポーツイベントだけにとどまらず，体育協会，体育指導委員，プロ・実業団チームと連携して，幅広い活動の場を確保します。

広報活動の推進

スポーツボランティアの意義や価値，あるいは楽しみ方を知ってもらい，気軽に参加できる活動であることをPRするため，広報宣伝活動を推進します。

(2) スポーツリーダーの育成

多様化するスポーツニーズに対応するため，体育協会，体育指導委員，プロ・実業団チーム，大学や企業など幅広い人材の活用を促進します。また，指導者としてスポーツにかかわることを希望する市民が，学校運動部活動や総合型地域スポーツクラブなど，さまざまな場面で活躍できる環境を整備します。

《具体的な施策》

競技スポーツ指導者の確保（再掲）

競技力の向上を目指す市民のために，プロ・実業団チームや民間スポーツクラブと連携して層の厚い指導者を確保するとともに，これらの人材を活用した講習会の開催などにより，スポーツ団体指導者のスキルアップを図ります。

スポーツリーダー

スポーツ指導者。スポーツの実技などを指導する人。これからは，スポーツイベントの企画・運営や市民に対するスポーツの動機付けなどが求められている。

生涯スポーツ指導者の確保

誰もが気軽にスポーツに親しめるようにするためニュースポーツなどの指導者育成研修会を開催します。

体育指導委員の充実

市民のスポーツニーズを把握するとともに、指導委員一人ひとりが、市民のニーズに応じて支援ができるよう、研修会や他団体との指導交流などによるスキルアップを図ります。

大学・企業との連携

市内のスポーツ指導者の指導力の向上を図るため、大学や企業、民間スポーツクラブとの連携による研修会の開催を検討します。

指導者派遣制度の確立（再掲）

指導者や審判など地域のスポーツ人材が、市民や学校、団体などのニーズに応じて活躍できる機会を確保するため、派遣制度の構築に取り組みます。

（3）組織・制度の充実

本市のスポーツ振興を効果的に推進するため、スポーツ団体のネットワーク化に取り組みます。また、市民のスポーツに対する意欲や意識の高揚を図るため、奨励制度を充実します。

《具体的な施策》

（仮称）スポーツ連絡協議会の設置

本計画に掲げる施策を効果的・効率的に推進するためには、行政だけでなく、スポーツ団体による協働体制が必要です。そのため、関係者間による情報や意見交換を促進するため、スポーツ関係組織のネットワーク化に取り組みます。

奨励制度の充実

スポーツの分野で活躍するためのモチベーションの向上を図るため、上位大会に出場する選手への支援の充実を図るとともに、スポーツボランティア等の活動を讃える奨励制度を検討します。

モチベーション

動機，行動を促がす要因。やる気，意欲。

実施時期

スポーツ ボランティア の育成	スポーツボランティアの育成	中長期
	活動の場の確保	中長期
	広報活動の推進	当 面
スポーツリーダー の育成	競技スポーツ指導者の確保（再掲）	中長期
	生涯スポーツ指導者の確保	当 面
	体育指導委員の充実	当 面
	大学・企業との連携	中長期
	指導者派遣制度の確立	中長期
組織・ 制度の 充実	（仮称）スポーツ連絡協議会の設置	当 面
	奨励制度の充実	当 面



4 気軽に利用できる「場所」の充実

スポーツの習慣化を図るためには、気軽にスポーツに親しむことができる場所の確保が欠かせません。そのため、既存施設の効果的・効率的な運営を促進するとともに、身近な生活圏にある学校体育施設の開放事業の充実を図ります。また、遊休地や遊休施設、公園、街路、空地などの生活空間を活用した新たな「場」づくりを推進します。

(1) 公共スポーツ施設の有効活用の促進

多様化するスポーツニーズに応えるため、公共スポーツ施設の利便性の向上を図るとともに、効率的な管理運営を促進します。

《具体的な施策》

定期的な団体利用の検討

公共スポーツ施設の有効活用と地域スポーツ団体の育成を図るため、登録制による定期的な団体利用を検討します。

スポーツ教室の開催（再掲） 施設・空間の有効活用

スポーツへの参加を促進するため、体育協会や指定管理者、民間スポーツクラブなどによるスポーツ教室を開催します。

外遊びの推進（再掲） 施設・空間の有効活用

子どもの運動機会の充実を図るため、放課後のグラウンドを活用したスポーツプログラムを実施します。また、公園や広場などの屋外において楽しめるスポーツを普及・促進します。

(2) 学校体育施設の活用の促進

スポーツに親しめる身近な場所として、市内小中学校の体育施設開放事業の充実を図ります。

《具体的な施策》

学校体育施設開放事業の充実

スポーツニーズの多様化にともなう利用需要に対応するため、開放日や開放時間帯の拡大など、学校運営に支障のない範囲での一層の施設開放を検討します。また、地域のクラブやサークルなどの団体利用だけでなく、個人の利用についても検討します。

管理運営体制の強化

利用情報のネットワーク化や学校関係者の負担とならない管理運営体制を検討します。また、受益者負担の原則に基づく施設利用の有料化や総合型地域スポーツクラブの拠点としての活用についても検討します。

(3) 身近なスポーツ施設の有効活用

スポーツの場の拡大を図るため、大学や企業のスポーツ施設や身近な生活空間の利用を促進します。

《具体的な施策》

大学・企業スポーツ施設の利用促進

大学や企業の保有するスポーツ施設を利用できるよう積極的に働きかけます。また、施設だけでなく大学や企業の優れた人材が広くスポーツ振興に活かされるよう連携体制についても検討します。

実施時期

公共スポーツ施設の有効活用の促進	定期的な団体利用の検討	当面
	スポーツ教室の開催（再掲）	当面
	外遊びの推進（再掲）	中長期
学校体育施設の活用促進	学校体育施設開放事業の充実	当面
	管理運営体制の強化	中長期
身近なスポーツ施設の有効活用	大学・企業スポーツ施設の利用促進	中長期

5 スポーツを楽しむきっかけとなる「情報」の充実

豊富な情報はスポーツへの関心を高めるとともに、スポーツに親しむきっかけづくりとなります。そのため、施設の利用情報のほか、イベント、サークル活動、クラブチームや選手の紹介など、幅広い情報の提供に取り組みます。

(1) スポーツ情報システムの整備

「する」「みる」「ささえる」など、スポーツへのかかわり方が多様化する中で、求められる情報も多岐にわたってきています。そのため、施設の利用に関することからイベント、サークル活動、健康やスポーツに関する豆知識など、市民のニーズに即した幅広い情報の提供に努めるとともに、インターネットを利用した情報システムの導入を検討します。

《具体的な施策》

インターネットを利用した情報の提供

市のホームページのスポーツに関する情報の充実を図るとともに、多様化するスポーツニーズに応えるため、インターネットを利用したスポーツ情報システムの導入を検討します。

スポーツ情報の一元化

分散しているスポーツ関連情報の一元化した提供を検討します。

スポーツ観戦情報の提供（再掲）

大規模イベントやトップアスリートが参加する大会だけでなく、市内で開催されるスポーツ大会や市内のチーム・選手などが出場する大会の情報提供を推進します。

(2) 市民による情報提供の推進

スポーツへのかかわり方として、情報を受け取るだけでなく、レポーター（特派員）や投稿など、市民自らが情報を提供できる市民参加型の情報提供を検討します。

(3) 利用者端末の機能の充実

近隣センターや公共スポーツ施設の利用者端末の機能を、既存の施設利用に関するだけでなく、サークル活動やイベント情報など、スポーツへの関心や参加意欲を促進するための情報の検索が行えるように、システムの充実を図ります。

実施時期

スポーツ情報システムの整備	インターネットを利用した情報の提供	中長期
	スポーツ情報の一元化	中長期
	スポーツ観戦情報の提供（再掲）	中長期
	市民による情報提供の推進	中長期
	利用者端末の機能の充実	中長期



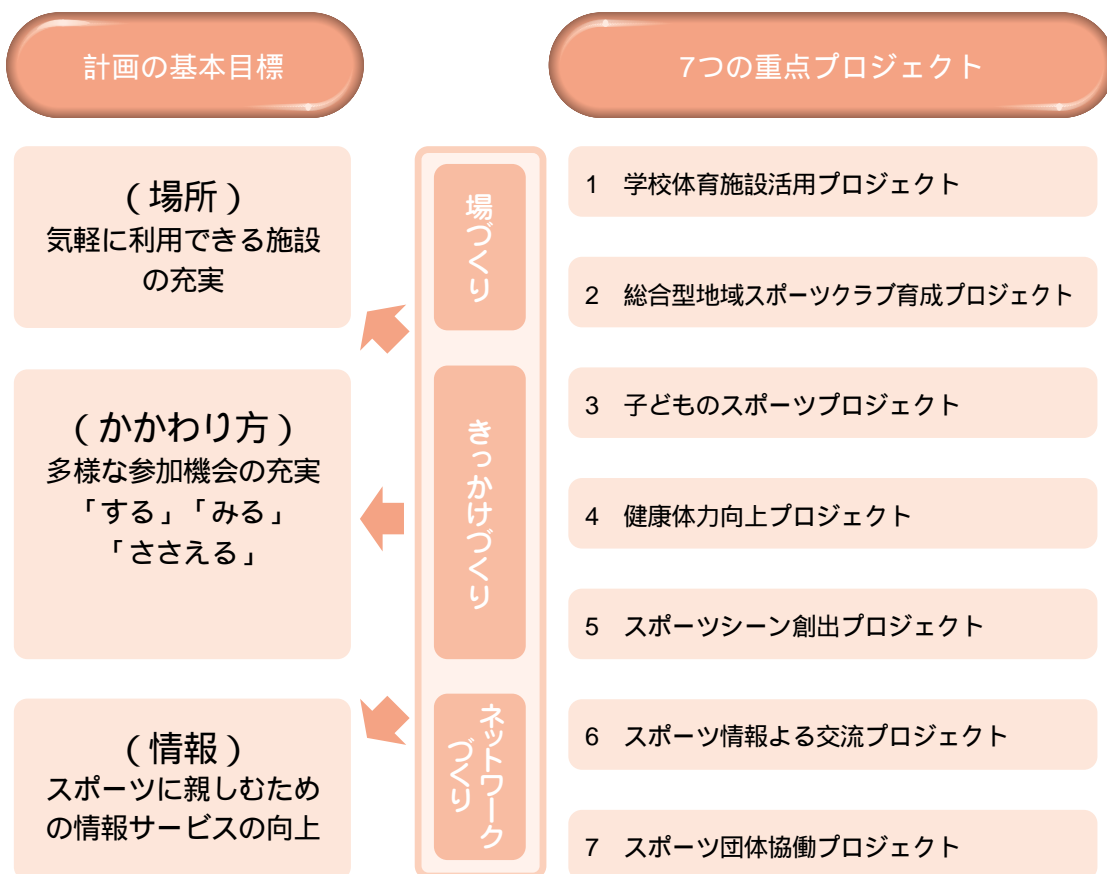
第6章

重点プロジェクト

重点プロジェクトとは、計画の基本目標を達成するために体系化した5つの基本施策（第5章）の中から、本市として重点的に取り組む施策を掲げたものです。

本計画では、3つの基本目標を達成するため、7つの重点プロジェクトを掲げます。まず、市民のスポーツ活動の場づくりを促進するため、「学校体育施設活用プロジェクト」「総合型地域スポーツクラブ育成プロジェクト」を展開します。次に、市民がスポーツをするきっかけとするため、「子どものスポーツプロジェクト」「健康体力向上プロジェクト」「スポーツシーン創出プロジェクト」を推進します。さらに、市民のスポーツへの興味・関心を促進するため、「スポーツ情報による交流プロジェクト」を掲げるとともに、これらの施策を効果的に進めるため、「スポーツ団体協働プロジェクト」を展開します。

図表 6-1 重点プロジェクトの位置づけ



1 学校体育施設活用プロジェクト

(1) 目的

身近なスポーツ活動の場の拡大を図るとともに、より地域に開かれたスポーツ施設として学校体育施設の有効活用を促進します。

(2) 具体的な施策

学校体育施設運営組織の創設

市内の小中学校体育施設の夜間・休日等の開放事業を統括的に運営する組織の創設を検討します。これまでは各学校ごとに運営委員会が設置され、利用の調整を行ってききましたが、組織の一本化により各学校の利用状況を一元管理することで、施設の公平・効率的な運用を図ります。また運営経費の確保、公共スポーツ施設利用者との負担の公平性の確保から、受益者負担の原則に基づく施設利用の有料化についても検討します。

(仮称)地区スポーツ協議会の創設

自治会や町会、学校体育施設の利用者によって構成され、学校体育施設の運用方法を学校体育施設運営組織に提案する組織の創設を検討します。

学校体育施設の利用予約システムの構築

現在の学校体育施設は地域のサークル、クラブの登録制による利用となっておりますが、今後は個人の利用についても検討します。また施設の有効活用を図るため、最寄りの施設が利用できない場合に他の空き施設が活用できるように、インターネットによる空き状況の検索や予約ができるシステムの構築に取り組みます。

スポーツ交流DAYの実施

スポーツによる地域住民の交流を促進するため、日ごろ学校体育施設を利用しているサークル、クラブなどが中心となって交流イベントを開催します。特に活動拠点となる学校の児童・生徒には、家族や仲間との交流を通じてスポーツの楽しさを体験させるとともに、地域の高齢者にとってはふれあいの場となるイベントを開催します。

(3) めざすすがた

学校のグラウンドや体育館、テニスコートなどでは、児童・生徒の活動とともに、地域の人々がスポーツを楽しんでいます。また、休日や夜間においても、学校からはスポーツを楽しむ地域の人々のにぎやかな声が聞こえてきます。学校は地域の憩いの場となっています。

2 総合型地域スポーツクラブ育成プロジェクト

(1) 目的

地域の特性を活かしたクラブを育成するため、大学や企業、民間スポーツクラブとの連携を図ったクラブ、複数の活動拠点を持つネットワーク型クラブなど、本市のさまざまな資源を活用しながらクラブづくりを進めます。

(2) 具体的な施策

普及・啓発事業の促進

総合型地域スポーツクラブは、スポーツ活動を通して地域のスポーツ振興はもとより、地域コミュニティの再生にも寄与することなど、総合型地域スポーツクラブ育成の趣旨や効果をPRするため、様々な普及・啓発事業を促進します。

学校体育施設を活用した拠点の確保・設立主体の育成

総合型地域スポーツクラブの育成にあたって、既存の学校施設開放事業の見直しを図るとともに、(仮称)地区スポーツ協議会を主体とする設立の支援に取り組みます。

地域で支える運営体制の実現

スポーツ関係団体をはじめ、地域住民、まちづくり関係団体など、幅広い主体の参画によるクラブの運営体制を構築します。

自主運営にむけた基盤強化

設立後の健全なクラブ運営に向けて、会員確保や活動PRのための広報活動、自主財源の確保、多様なプログラムの提供、指導員の確保など活動基盤の強化のための支援を検討します。また市内の民間スポーツクラブ、プロ・実業団チーム、大学、企業などによるクラブの支援について検討します。

(3) めざすすがた

小学校や中学校を活動場所として、地域住民の手で運営されている総合型地域スポーツクラブでは、多様なスポーツが行われています。そこでは、一人ひとりが自分に合ったスポーツを楽しみながら、家族や仲間との交流を深めています。総合型地域スポーツクラブは、スポーツを核とした地域住民のふれあいの場として、地域コミュニティを育てています。

3 子どものスポーツプロジェクト

(1) 目的

スポーツライフを充実したものとするためには、幼児期や少年期に体をつかった遊びを多く体験することが大切です。この時期に遊びやスポーツなどの運動習慣を身に付ける経験は、成人後のスポーツの日常化に大きく影響します。そのため、子どもたちのスポーツへの興味、関心、意欲を高めるとともに、体を動かすことの喜びを味わう機会と自由に遊べる環境の整備に取り組めます。

(2) 具体的な施策

外遊びの推進

学校のグラウンドで気軽に楽しめ、「走る」「跳ぶ」「投げる」などの基礎的な運動能力を高めるスポーツを「外遊び」として奨励するとともに、「外遊び」の先生となる人材を確保・育成します。また、「外遊び」を定着させるため、家族や仲間と気軽に参加できるイベントを実施するなど、スポーツへのきっかけとなる「外遊び」の普及・促進に努めます。

親子スポーツの推進

子どものスポーツへの関心や意欲は、親のスポーツ実施の有無が大きく影響しています。そのため、子どもを取り巻く生活環境や体力の状況を把握するとともに、子どものスポーツへの関心を高めるプログラムの提供に取り組めます。

(3) めざすすがた

学校では、休み時間や放課後に、子どもたちが元気にたくましく、友だちと外で遊んでいます。また、休日のグラウンドや公園では、子どもたちが外遊びを楽しむ姿や親子でスポーツを楽しむ姿を見ることができます。窓の外からは、いつもにぎやかな子どもの声が聞こえてきます。

4 健康体力向上プロジェクト

(1) 目的

好きなことを1日でも長く続けるためには、健康な体を維持することが不可欠です。そのためには、市民一人ひとりが生活の中の行動を意識化するとともに、スポーツの重要性を認識し、日常的にスポーツに親しむことが大切です。福祉部門や保健・医療機関、大学などの研究機関と連携して、市民の健康づくりの支援に取り組みます。

(2) 具体的な施策

健康・スポーツに関する意識の啓発

広報やインターネットを通じて、健康づくりに必要なスポーツに関する情報を提供するほか、スポーツ障害予防委員会によるセミナー活動の充実を図ることで、健康やスポーツへの意識を啓発するとともに、スポーツへの参加を促進します。

健康づくりのためのスポーツの推進

スポーツによる、疾病の一次予防や介護予防への取り組みとして、福祉部門や保健・医療機関、大学などの研究機関と連携した相談・指導体制の仕組みを検討します。また個々の体力や運動能力に応じたプログラムやスポーツ教室の提供に努めます。

(3) めざすすがた

市民一人ひとりが健康や体力に関心をもち、生活の一部にスポーツを取り入れ、心身ともに健康な生活を営んでいます。“今日は階段を登ってみようかな”日常生活の中の行動に運動を心がける意識が広まっています。

スポーツ障害予防委員会

条例に基づく組織で、スポーツによって生じる障害を予防するため、障害を起こさないスポーツ指導方法の研究や、障害事例の資料収集・分析を行っている。

5 スポーツシーン創出プロジェクト

(1) 目的

スポーツの楽しみをより多くの人と共有し、街中がスポーツする光景であふれる環境を整備することで、街の魅力を高めます。

(2) 具体的な施策

デモンストレーション・スポーツの実施

市民のスポーツへの関心や意欲を喚起させるとともに、商店街の活性化を図るものとして、青少年を中心に人気の高いストリートサッカーやストリートバスケ、ウォールクライミングなどを、デモンストレーションとして、人が多く集まる繁華街（ショッピングモールなど）等で実施します。

スポーツチャレンジDAYの実施

県民の日や国民の祝日などを「スポーツチャレンジDAY」として設定し、市内の公共スポーツ施設でスポーツ教室や体験型イベントを開催します。またイベントの開催にあたっては、指定管理者、スポーツ団体との協力・連携により推進します。

市民スポーツの導入

スポーツの活性化を図るため、特に小中学校で取り組みやすく、また、気軽に親しめるスポーツを本市が奨励するスポーツとして導入と定着を図ります。

コンパクトスポーツの普及・促進

省スペース、少人数で楽しめるスポーツとして、フットサル、3 on 3（スリー・オン・スリー）の普及を促進します。フットサルや3 on 3はそれぞれ少人数で楽しめることから、「チームやサークルが容易に作れる」「ボールに触れる機会が増える」「施設の有効活用が図られる」などの利点があります。特に施設の利用の点では、フットサルコートはサッカーコート1面に対し6面をつくることができ、また3 on 3はゴールひとつで遊ぶことができます。駅前や商店街などの公衆の空間を活用したストリートイベントの開催により、魅せるスポーツとして関心を高めるとともに、公共スポーツ施設をはじめ多様な空間で楽しめる環境の整備に取り組みます。

デモンストレーション

PR・宣伝のための実演。

フットサル

5人制のミニサッカー。ルールはサッカーに準じ、サッカーよりも小さなフィールド、小さなボールでプレーする。年齢・性別・経験にかかわらず誰でも手軽に参加できるスポーツとして人気がある。

3 on 3（スリー・オン・スリー）

3人対3人のバスケット。ストリートバスケットともいわれている。バスケットボールのコートの半分の広さ、1つのゴールでプレーが可能。

スポーツフェスタの開催

本市では、小中学生を対象に、市内に拠点を置いて活動するプロ・実業団チームと連携して「スポーツフェスタかしわ」を開催しています。このフェスタは、市民が国内外で活躍する選手に触れ合う数少ない機会であることから、今後は、子どもたちだけでなく、日ごろスポーツをしない人でも、家族や仲間と一緒に気軽に参加できるイベントとしての開催を検討します。

(3) めざすすがた

市内のいたる所でスポーツイベントやスポーツ教室が行われ、多くの市民がスポーツを楽しんでいる光景を目にします。また、地域独自のローカルルールのもとニュースポーツやレクリエーションが楽しまれています。そんなスポーツシーンにあふれたまちづくりが進められています。

ローカルルール

特定のグループ、地域で取り入れられている特別なルール。ゲームを面白くするために独自に考案したものが多い。

6 スポーツ情報による交流プロジェクト

(1) 目的

スポーツをやってみたい、レベルアップを図りたい、試合相手を探している、地域のスポーツチームを知りたいなど、多様な市民のスポーツニーズに応えるため、情報提供体制を整備します。

(2) 具体的な施策

スポーツ情報システムの構築

施設の利用に関することから、イベント、サークル活動、健康やスポーツに関する豆知識など、市民のニーズに即した幅広い情報の提供に努めるとともに、インターネットを利用した情報システムの導入を検討します。

市民による情報提供の推進

スポーツへのかかわり方として、情報を受け取るだけでなく、レポーター（特派員）や投稿など、市民自らが情報を提供できる市民参加型の情報提供を検討します。

利用者端末の機能の充実

近隣センターや公共スポーツ施設の利用者端末の機能を、既存の施設利用に関するだけでなく、サークル活動やイベント情報など、スポーツへの関心や参加意欲を促進するための情報の検索が行えるように、システムの充実を図ります。

(3) めざすすがた

豊富な情報が簡単に入手できることから、スポーツ情報の検索が日課となっています。そして、人々は手にした情報をもとに、各種スポーツイベントやスポーツ教室に出かけていきます。スポーツへの参加意欲を駆り立てるような魅力ある情報があふれています。

7 スポーツ団体協働プロジェクト

(1) 目的

本市の特色を活かしたスポーツのまちづくりを推進するためには、既存のスポーツ団体間の連携体制は欠かせません。また市民との協働体制を築くためには、スポーツイベントに対して市民が受け手（参加者）でいるばかりでなく、ささえる側として積極的に関わることができる環境も必要です。スポーツ活動への新しい参加形態として、（仮称）スポーツサポーターを組織化するとともに、スポーツ団体との連携体制の確立を図ります。

(2) 具体的な施策

スポーツ団体の連携体制の確立

多様化するスポーツニーズに応え、より多くの市民のスポーツへの参加を促進するためには、スポーツ団体による効果的・効率的な連携体制が必要です。そこで、体育協会をはじめとする市民スポーツ団体、プロ・実業団チーム、指定管理者など、スポーツ関係者の連携を確立・強化するため、（仮称）スポーツ連絡協議会の組織化に取り組みます。（仮称）スポーツ連絡協議会は、スポーツイベントの開催、Jリーグなどの試合の支援、学校体育施設を活用した地域のスポーツ活動の促進に取り組みます。

（仮称）スポーツサポーターの組織化とスポーツ団体との連携

スポーツへのかかわり方として、スポーツボランティアという新しい参加形態が確立しつつあります。本市では、スポーツイベントへの補助的な役割としてだけでなく、スポーツシーンを創造する役割として「（仮称）スポーツサポーター」を組織化します。また、体育協会や体育指導委員協議会などと連携して、活動機会の確保に努めます。

(3) めざすすがた

体育協会をはじめさまざまなスポーツ団体が積極的に市民のスポーツ活動を支援しています。（仮称）スポーツ連絡協議会のもと、プロ、アマチュアの垣根を越え、それぞれの組織や団体が連携・協力してスポーツを盛り上げています。また、スポーツイベント会場にはたくさんの（仮称）スポーツサポーターの姿が見られるなど、市民が多様なかかわり方を通じてスポーツを楽しんでいます。

第7章 期待される役割

本計画に掲げた各施策の推進は、行政のみならず、市民はもちろんのこと、大学・医療機関、スポーツ団体、民間企業など多様な主体の協働があってはじめて実現できるものです。

今後は、これらの関係機関や団体の役割分担のもと、協働・連携を進めていくとともに、ネットワークの形成に努め、本市のスポーツ振興を推進していきます。

1 行政・団体

(1) 柏市

計画の基本理念「市民創スポーツ～スポーツのある暮らし～」を実現するため、限られた地域の資源を有効活用するとともに、スポーツ課を中心に庁内関係部局および関係団体と連絡調整を密にし、協働体制による施策を展開します。

(2) 柏市体育指導委員協議会

多様なスポーツニーズに対応するため、指導者としての知識や技術の習得に努めるとともに、地域スポーツ振興の推進役、行政と市民のパイプ役となり、日ごろスポーツをしない人への動機付けや、スポーツの楽しみ方の啓発などを通じて、本計画の施策の実現を目指します。

(3) 柏市体育協会等スポーツ団体

スポーツを通じた市民の健康増進と明るい市民生活の実現を目指し、スポーツ大会やスポーツ教室の開催を通じてスポーツの楽しさを提供するとともに、スポーツ情報の提供や指導者の派遣など、市民がスポーツに親しめる機会の充実を図ります。また、各種団体と連携・協力し、スポーツ人口の拡大や習慣化につながる活動を展開します。

(4) 学校（小・中・高）

児童・生徒の体力向上や運動機会を確保するため、学校体育、運動部活動の充実を図ります。また、学校体育施設の開放を促進し、市民の身近なスポーツ活動の場の創出に協力します。

(5) P T A ・自治会・町会

子どものスポーツ環境の充実と参加意欲の促進を図るため、学校を中心としたスポーツ行事への積極的な参加・協力が期待されます。また、参加しやすいスポーツイベントの開催や、スポーツ活動を通じた地域の防犯活動への支援が期待されます。

2 市民・関係機関

(1) 市民

健康や体力に関心をもち、スポーツ活動に積極的に取り組むことが期待されます。特に、スポーツを「する」だけでなく「ささえる」活動や、スポーツを通じた交流活動への参加が期待されます。

(2) 大学・企業

施設の開放、指導者の派遣、各種団体との連携によるスポーツイベントの開催など、保有する資源（施設、人、情報など）の活用が期待されます。

(3) 民間スポーツクラブ・サークル（クラブ）

市民のスポーツ活動の受け皿となるだけでなく、スポーツを盛り上げるための各種スポーツイベントへの協力が期待されます。

(4) 医療等機関

健康・体力づくりの一つとして、生活の中にスポーツを効果的に取り入れることができるように、各施策への協力・支援が期待されます。

(5) プロ・実業団チーム

トップリーグや全国大会での活躍、交流イベントや地域行事への参加など地域に根ざした活動を通じて、スポーツへの関心を高めるとともに、「みる」スポーツの対象として、市民が愛着をもって応援できるチームとなることが期待されます。また、総合型地域スポーツクラブへの支援、スポーツ教室の開催、指導者の派遣など、競技力の向上やスポーツ活動のきっかけづくりへの支援が期待されます。



柏市スポーツ振興計画